

フィリピン・ボホール島訪問記

一般財団法人日本水路協会審議役 金澤輝雄

2013年6月に、フィリピンのボホール島（正確にはボホール島と橋で繋がったパングラオ島）で会議があり、3日間滞在しましたが、会議終了後の半日、ボホール島内をエクスカーションで回り、いくつか珍しい体験をしました。



フィリピンは北にルソン島、南にミンダナオ島という大きな島がありますが、その間には多くの島から成るヴィサヤ (Visaya) 諸島があります。その中ではセブ島が有名ですが、ボホール島はセブ島の南東側にあり、フィリピンでは10番目の大きさの島です。マニラからは飛行機で1時間ほどで中心地のタグビララン (Tagbilaran) の空港に着きます。フィリピン航空で成田を9時半に出発するとマニラに13時10分着、14時40分発の便に乗り継いで、16時にタグビラランに到着できます。セブから高速船も出ていますので、セブからツアーで訪れることも可能です。

フィリピンの行政区域は、81の州と、市の一部で州に属さない独立市、とのことですが、ボホール島はボホール州を構成し、人口は百万人余です。

ボホール島の南西側にパングラオ島という島があり、対岸のタグビラランと2本の橋で繋がっています。島の南端のアロナビーチまではタグビラランから車で40分程度かかります。パングラオ島はダイバーのメッカともいふべきところで、アロナビーチの2kmの砂浜にはダイバー向けの小型船がたくさん係留され、近辺のサンゴ礁や30分ほど走った沖合にあるバリカサグ島で魚群やマンタを堪能できます。





パングラオ島の南端
にあるアロナビーチ

ボホール島には、路線バスと10人以上乗れるジープニー（これもルートは固定）のほかにはタクシーが20台しかなく、バイクの横に座席と屋根と車輪を付けたトライシクルと呼ばれる3輪の乗り物が一般的です。



ホテル前で待機する何台ものトライシクル

西暦1521年にマゼランがフィリピンに到達します。マゼランはセブ島のいくつかの部族と友好的な関係を結びますが、セブ島に隣接したマクタン島（現在はセブ島と橋で繋がり、セブ空港が設置されています）の部族と争いとなり命を落とします。その後、1565年にはレガスピが5隻の船に500人の兵と修道僧を乗せてやって来て、セブ島に拠点を構えます。

レガスピはボホール島も訪れ、部族の長と平和協定を結びました。二人は互いに傷を付けてしたたる血をワインに注ぎ、これを飲んで契りを交わします。この儀式は現地ではサンデュゴ(sandugo)と呼ばれますが英語ではone bloodで、タグビラランにこの場面を表した像が建っています。



血盟の儀式の像

さて、ボホール島で最も有名なのは、チョコレートヒルズとターシアです。チョコレートヒルズは茶色の丘の集まり、ターシアは東南アジアにのみ生息するメガネザルです。

チョコレートヒルズは、石灰岩でできたお椀を伏せたような高さ数十mから 100m余の丘で、雨季には草が生えて緑色なんですけど、4月～5月の乾季の間は草が枯れて茶色になります。数十平方キロの地域に 1,000 以上の丘が集まっていて独特の景観を成しています。ボホール島の真ん中近くなので、タグビラランからは車で1時間以上かかります。訪問した6月下旬には乾季が終わって既に雨季にさしかかっていたので、丘は茶色から緑色に変わり始めたところでした。世界には他にも同様の地形があるそうですが、茶色になるのはここだけのことです。



丘の成因は、平らだった石灰岩の層が網目状に浸食されて残った部分がこのような形の丘になったと説明してありました。駐車場から 200 段余りの階段を登った展望台から周囲を見渡すことができます。チョコレートヒルズの景色はフィリピン航空のホームページにも使われています。

ターシア(tarsier)は、霊長類のメガネザル科に分類されます。その中でもボホール島のターシア（フィリピンメガネザル）は最小級で、手の平に乗るくらいのサイズなのですが、写真でご覧のとおり、かわいいというよりはちょっときつい顔付きをしています。メガネザルは夜行性なので目が発達したそうです。昼間は木にしがみついてじっとしているので想像しにくいのですが、夜になると極めて敏捷に木から木へ飛び移って昆虫などを捕えます。東南アジアの島々には他にもボルネオメガネザルなどが生息しています。ボホール島では、保護区の中にターシアを間近に見ることのできる施設があります。





これはボホール島特有というものかどうかわからないのですが、大きな「にしきへび」に触ることができる施設があります。あまり強く触って機嫌を損ねてはと思い、指先でそっと触れましたが、筋肉が動くのを感じました。

次は zip line の紹介です。ロボック川(Lobok River)の高さ 120m の峡谷を跨いで張られた長さ 500m のワイヤーを、滑車を使って疾走します。写真でお分かりのように、水平にぶら下がってまさに宙を飛びます。これはだめだと思いい方にはロープウェイもあります。と言ってもこちらも柵のみですので高所恐怖症の方にはお勧めしません。同行の 20 名ほどのうち、zip line を選択したのは半分くらいでした。なにしろ zip line は猛スピードなので私は片道だけ zip line にして帰りはロープウェイでゆっくり景色を見ながら戻りました。



zip line で滑走を始めた時点ではどのようにして止まるのかが分かりません。対岸がぐんぐん近づいてきて、どうなるんだろうと悩む間もなく、航空母艦の着艦装置のようなフックで急ブレーキがかけられて無事に峡谷の横断を終えました。お値段は往復で 300 ペンですから 750 円くらい。スリルをお求めの方はぜひお試しください。



この他にもロボック川の船上レストランで食事をして、折り返し点で子供たちのバンブーダンスなどのアトラクションを楽しむコースもあります。



ここまで楽しいことばかり書いてきましたが、最後にトラブルのことも書いておきましょう。

帰りの便は、11時にタグビララン空港を出発し、12時過ぎにはマニラに到着、14時30分出発の成田行きに乗り継ぐ予定でした。ホテルを9時に出発し、空港でチェックインと荷物検査を経て10時には待合室へ。マニラからの便は少し遅れたものの11時半には到着し、これなら時間的に大丈夫だろうと予想したのですが、甘かった。「技術的なトラブル（コンピューター関係）で点検中」とのアナウンスがあり、次には「マニラから技術者を呼ぶ」とのアナウンス。これではもう乗り継ぎに間に合うわけがありません。

結局、技術者はマニラからの次の定期便で17時前に到着し、我々の便は18時にやっと出発できました。マニラ空港で荷物を受け取り、19時半から空港内のフィリピン航空の事務所で順番待ちの行列。国際線に乗り継ぐ10数人に対して最初は一人（最後の方になってからは二人）で捌くので時間がかかり、ホテルとそこまでの車の手配、翌日の便への振り替えの手続きが終わったのが21時半。空港を出てホテルに着くと22時でした。ボホール島からマニラまで、飛行時間は1時間ですが、たっぷり1日の行程でした。